

児童教育学科 50 年記念の集い 音楽会

～その伝統とこれから～(第二次案内)

曲目情報を追加致しました。皆さまに広くご案内差し上げております。席数の関係上、来場者数把握が必要です。参加ご希望の方は a-noguchi@seinan-gu.ac.jp (担当:野口) までメールにてお申し込みください。

日時:2024 年 8 月 27 日(火)

13:30 開場 14:00 開始 16:20 終了予定(休憩あり) 会費:無料

場所:西南学院大学コミュニティーセンター・ホール

主催:西南学院大学人間科学部児童教育学科

●その伝統の象徴(釣瓶渡し)

わたしが与える水を飲むものは、決して乾かない。わたしが与える水はその人の中で泉となり、永遠の命に至る水が湧き出る
(ヨハネ 4.14)

—まことの水脈に触れて

生命(いのち)の水を汲むものとならん—

●これから(西南学院 D. E. & I. 宣言)

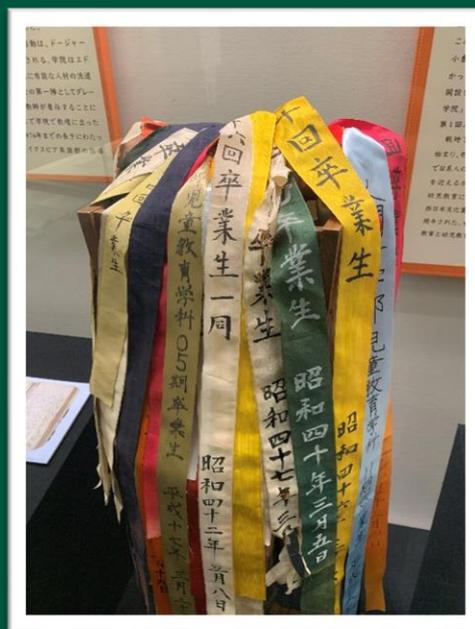
多文化共生、他、多様性に寛容な社会の実現を目指した教育の推進

プログラム

- ・奏楽
- ・讚美歌「あまつましみず」
- ・聖書朗読・祈祷
- ・講師紹介
- メゾソプラノ:木下美穂
- ピアノ:東儀かな江
- ・第一部 歌・音楽の泉(演奏)
- 休憩
- ・第二部 「時代潮流の中心地」
- ベルリン生活から(お話・演奏)

280 年以上にわたる伝統を持ち、日々オペラ上演史そのものを編み続けるベルリン国立歌劇場の合唱団員として、30 年以上ベルリンで音楽活動に携わっていらっしゃる木下美穂さん。同時期・同環境で、コレペティートル、ピアニストとして活躍されてきた東儀かな江さん。クリスチャンで、本学科の「ベルリン研修プログラム」の現地協力者でもいらっしゃるお二人をお招きし、溢れる「生命の泉」を感じる機会を持ちたいと思います。

また、「時代潮流の中心地」といわれる国際都市ベルリンで、それぞれお子様を成人させられているご経験から、貴重なお話を伺える機会となることでしょうか。 企画責任者 渡邊 均



演奏曲目

第一部 「信じること」

- ・『口短調ミサ曲』より 「主を頌め」(J.S.バッハ)
- ・オラトリオ『エリヤ』より
「汝、主のみ前に口をつぐみ忍びて、主を待ち望め…」(F.メンデルスゾーン)
- ・讃美歌 110 番 「優しくも愛らしき」(J.S.バッハ)
- ・ピアノ独奏 「コラール前奏曲」(J.S.バッハ／F.ブゾーニ)
- ・『マタイ受難曲』より 「憐れみ給え、我が主よ」(J.S.バッハ)
- ・カンタータ 63 番『キリストの徒よ、この日を彫り刻め』より
二重唱 「呼ばわれ み空に」(J.S.バッハ)

第二部 (愛すること)

- ・「アヴェ・マリア」(J.S.バッハ/C.グノー)
- ・「マリアの子守唄」(M.レーガー)
- ・「アヴェ・マリア」(F.シューベルト)
- ・「そして小鳥は」(J.プッチーニ)
- ・歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より 「アヴェ・マリア」(P.マスカーニ)
- ・ピアノ独奏 エチュード作品 25-1 番「エオリアン・ハーブ」(F.ショパン)
- ・「夢のあとに」(G.フォーレ)
- ・「マンドリン」(G.フォーレ)
- ・「糸を紡ぐグレートヒエン」(F.シューベルト)
- ・歌劇『ジャンニ/スキッキ』より 「私のお父さん」(J.プッチーニ)

--Profile--

岡山大学教育学部中学校教員養成課程音楽専攻卒業。愛知県立芸術大学大学院声楽専攻修士課程修了。

東京二期会・名古屋二期会合同公演『カルメン』メルセデス役でオペラデビュー。日本でのオペラ、コンサート活動を経て渡独。1992年、ベルリン国立歌劇場に合唱団員として入団。2017年、勤続25年の表彰を受け、現在ベルリン国立歌劇場で33年目のシーズンを迎える。

ベルリン国立歌劇場のソリストとしては、『カルメン』(ダニエル・バレンボイム指揮)にオレンジ売りの娘役、『ファウストの劫罰』(サイモン・ラトル指揮)に天の声、『影のない女』(ズービン・メータ指揮、シモーネ・ヤング指揮)に生まれてこなかった胎児役で出演。『後宮からの逃走』(セヴァスティアン・ヴァイグレ、フィリップ・ヨルダン指揮)ではソロカルテットを歌う。また、『マハゴニー市の興亡』(ウエイン・マーシャル指揮)ではアラバマ・メートヒエン役を演じた。

コンサート・ソリストとしては、2000年にベルリンのマイスターザールでリサイタル。2010年にはベルリン・フィルハーモニー大ホールでメンデルスゾーンの『讃歌』のソロを歌った。また、宗教曲のアルト・ソリストとして、ペルゴレージ『悲しみの聖母』、バッハ『口短調ミサ曲』、『マタイ受難曲』、『ヨハネ受難曲』、『クリスマス・オラトリオ』、モーツァルト『レクイエム』、ヘンデル『メサイア』、ドヴォルザーク『ミサ曲』、フォーレ『レクイエム』、デュリュフレ『レクイエム』、サン＝サーンス『クリスマス・オラトリオ』など数多くの宗教曲をシュターツカペレ等のオーケストラとベルリン各地の教会で演奏している。

2011年からは、ベルリン・コンツェルトハウス大ホールで開催されるニューイヤー・オペラ・コンサートに3年連続で出演し、ヴェルディやプッチーニのオペラ・アリアを歌っている。

2009年からは、ベルリン国立歌劇場の児童合唱団、青少年合唱団、アポロ合唱団のヴォイス・コーチを務める。

2019年からはベルリン国立歌劇場の8人の女声による「アンサンブル・ライムウッド」を組織し、歌劇場のアポロホールで定期的にコンサートを開いている。また、ベルリン文化フォーラム聖マタイ教会の「ベルリン女性声楽アンサンブル」のメンバーでもあり、2022年11月の『Ich will zornig sein』(私は怒っていたい、詞:トーマス・ベルンハルト、音楽:久保摩耶子)の世界初演、2023年ベルリン再演、2024年ザルツブルグでのモーツァルトウム大学教会での公演をはじめ、数々のコンサート活動を行っている。



メゾソプラノ
木下美穂



ピアノ
東儀かな江

東京生まれ。7歳で渡米。カリフォルニア大学ロサンゼルス校音楽学部卒業。ボストンニューイングランド音楽院大学院ピアノ専攻修了。

1992年に渡独。ベルリン市立音楽学校でピアノ講師とオペラスタジオのコレパティートル。1995年から、ヴィッテンベルグ州立劇場、北ハルツ劇場、ヒルデスハイム市立劇場と専属契約。カペルマイスター兼コレパティートルを歴任。

2001年-2002年 テアター・アム・ポツダマープラッツのミュージカル『ノートルダムの背蟲男』にて鍵盤楽器担当。

2002年-2004年 テアター・アム・ポツダマープラッツ『キャッツ』稽古ピアノと鍵盤楽器担当。

2006年からベルリン市立音楽学校でピアノ講師とコレパティートル。2007年からオイリュトミー学校でピアニスト。

2011年、ベルリン国立歌劇場にてサーシャ・ヴァルツ演出/振付、細川俊夫作曲『松風』の稽古指揮者。2012年-13年ベルリン、テアター・デス・ヴェステンスのミュージカル『ダンス・オブ・ヴァンパイア』にて鍵盤楽器担当。

2013年-2017年ベルリン国立歌劇場・シャウビューネ共同制作『For the Disconnected Child』、ベルリン国立歌劇場にてオペラ『ナイザー』、『スルー・ローゼス』、『ファルコーネ』のいずれもコレパティートルとオーケストラピアニストを務める。

2015年-16年ベルリン、テアター・デス・ヴェステンスのミュージカル『Ich war noch niemals in New York』にて鍵盤楽器担当。この他、ブランデンブルグ国立管弦楽団フランクフルト、コッブス州立劇場フィルハーモニー管弦楽団、ノイブランデンブルグ・フィルハーモニー管弦楽団、プロイセン・ブレンツラウ室内管弦楽団、ライプツィヒ交響楽団でエキストラピアニストとして活動。

2018年より東京在住。ピアノ講師。